

株式会社 橋本工作所

DX宣言書

2026年5月29日
株式会社 橋本工作所
代表取締役社長 橋本 篤治

□ 経営理念

品質は自らの誇りを旨とし、愛敬の念をもって、顧客満足に最善を尽くす

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ デジタル技術を活用して業務の可視化と情報の一元管理を進めることで、生産性と品質の向上を図り、効率的な生産体制を構築します
- ◆ 社員一人ひとりが成長できる職場環境を整えるとともに、組織としての連携力を高め、変化に強い組織を目指します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ~ 2027年3月)

戦略 「DX推進に向けた土台づくり」

- 施策
- DXの意義を共有するため、全体朝礼にてDXの方向性について説明
 - 情報の共有や一元管理に向けて、グループウェアの基盤を構築
 - 業務効率化に向けて、生産管理システムと図面管理ソフトの基盤を構築
 - 各工程(段取り・加工・脱着)の作業時間を調査し、品番ごとの標準時間を設定
 - DXの現場推進力を高めるため、内容に応じたプロジェクトチームを編成

➤ フェーズ2(2027年4月 ~ 2028年3月)

戦略 「デジタル活用による業務効率化の推進」

- 施策
- 生産管理システムを活用し、生産スケジュールの可視化による効率的な生産体制の構築を推進
 - 図面管理ソフトを活用し、関連資料や過去事例を一元管理することで、業務効率化を図るとともに、不良の削減や品質の向上を推進
 - グループウェアを活用し、情報の共有や一元管理をすることで、業務の効率化や情報管理コストの削減、社内コミュニケーションの促進、意思決定の迅速化を推進

➤ フェーズ3(2028年4月 ~ 2029年3月)

戦略 「DXによる継続的な業務改善と自走型の組織づくり」

- 施策
- デジタル活用状況を定期レビューし、システムや運用ルールの改善をサイクル化
 - DXの推進によって、社員自らが業務改善の提案・検討・実行を行える職場環境を構築

□ DX推進体制

- 常務取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- デジタルツールの活用率 : 全社員の90%以上が活用(~2027年9月)
- 生産計画・負荷状況の可視化率 : 加工指示の90%以上が可視化(~2027年12月)
- 年間休日日数の増加率 : 2025年度比 17%向上(2028年4月~)